

した。

實驗材料は人工的に感染せしめた含卵犬糞便を用ひ、其の1乃至數回洗滌した沈渣に以下記載の藥劑を諸種の濃度、時間及び作用量に於て作用せしめ、作用せしめた材料の半分は其儘、他方には藥品作用前の糞汁を添加し、對照の無處置材料と同時に蟲卵を培養した。

細菌の検査は家兔血液寒天平板培養により、蟲卵培養時と、仔蟲検査時の2回行つた。

實驗の結果によれば I フォルマリン 30% 50分 倍量、乃至 40% 2時間、倍量作用にて實驗例の100%に於て殺菌生存蟲の状態を得る。II アンチフォルミン 50% 2~2.5時間 倍量にて100%に殺菌生存蟲の状態を得る。III 鹽酸 15% 1時間 同量、乃至 60% 30分 倍量作用にて殺菌生存蟲の状態を得るが全例を其状態となし得ない。60% 30分 倍量に於ても70%の成功率を示すのみである。IV 昇汞 0.05~0.1% 20分~1時間 同及び倍量作用に於て蟲卵は死するも細菌が消滅しない場合が半数例もある。故に昇汞によりては殺菌生存蟲の状態を得ることは困難である。V ハロミン 10% 2時間 倍量作用にて蟲卵培養時は無菌状態であつたが、仔蟲検出の場合には總例に於て菌發生を認めた。故に殺菌生存蟲の状態を得る條件があり得ると思はれる。VI マーキロクローム、超濃度リンゲル液、アンチフォルミン 30% 3時間 同量及び倍量作用を2回行ひ所謂間歇殺菌等の處置に於ては殺菌生存蟲の状態となし得ない。

以上要するに、フォルマリンとアンチフォルミンには殺菌生存蟲状態閾域條件がある。

本邦肺結核死亡の時系列に関する統計的解析——第2報 趨勢變化

東京女子醫學專門學校衛生學教室 (主任 吉岡博人教授)

安 場 登 喜 子

緒言 本邦肺結核死亡の地理的、歴史的變化を明確にする爲に府縣別性別に死亡率の趨勢變化を追究した。

方法 數學の方程式中比較的單純な直線、複利曲線、拋物線を用ひて趨勢變化を現はす最小自乘法に依つてその傾向を觀察したのである。

研究の結果 本邦府縣別肺結核死亡率趨勢變化は之を前期高峻型(都會型)、上昇型(地方型)、中間型(全國型)の三つに分類し得る。又これを更に分つて各型の代表的な型をA型とし、他型との移行型をB型とした。

前期高峻型(都會型)は明治年間に死亡率高く、近年はそれに比して低率で、全期間を通じては死亡率が最も高率なものである。性別には、女子が前期、男子が後期に高率である。大體三期に分けられて、上昇、下降、上昇の趨勢線を示す。

上昇型(地方型)は最初最も低く漸次上昇し近年が最高の死亡率にある。全體としては死亡率が低く、全期間一直線の趨勢線又は二期に分かれた直線的な上昇で趨勢線が示されてゐる。

中間型(全國型)はこの中間の率にあつて、A型は全國の死亡率曲線の畫く型に類似し、前期凸

型、後期は凹型の拋物線に依つてその趨勢變化を現はし、B型は之より稍々低率で、前期を上昇の線で現はしたものである。A型は上昇、下降、上昇、下降、上昇、B型は上昇、下降、上昇、又は上昇、下降の趨勢線を示す。

都會型は多くは大都市を主體とし、地方型は農村的特徴の府縣と考へられるから、この分類に依つて都鄙の結核死亡の年次的推移を推測し得る。即ち明治年間に結核死が問題となつたのは主として都會であり、之が近年には農村へも蔓延し、現在は都鄙兩者に擴つてゐる。

性別に觀て、女子が明治年間に高く、男子が近年になつて高率となつたといふ年次に依る差異は、之が性比の生物學的疾病抵抗の差異であるといふよりも、社會的因子の影響が直接の原因である事を示してゐると考へられる。即ち明治年間の輕工業、近年の重工業といふ本邦産業形態の變化は、それらに従事する青年女子、青年男子の結核死を高めた爲に、かゝる差異が起つたのであらうと推測し得るのである。